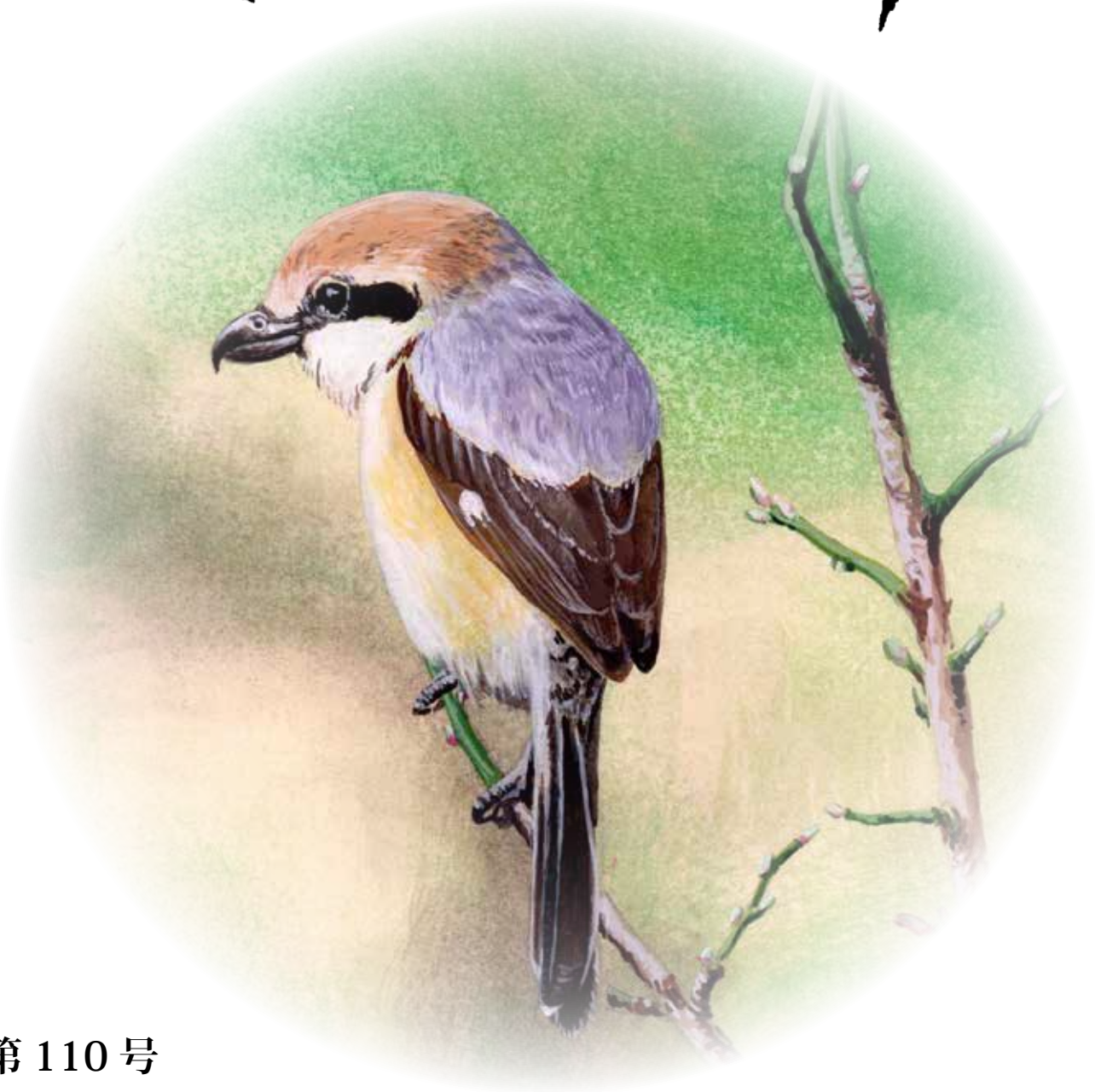
しっぽり



第 110 号

2021 年 9 月
日本野鳥の会三重　http://miebird.org/

垂坂公園　シロハラの５年間

四日市市　今西 純一

2015 年度から 2019 年度にかけての 5 年間、垂坂公園に同個体のシロハラが飛来しました。大型ツグミ類が 5 年続けて飛来するのは珍しいようですので、その記録を報告します。

初めての出会いは 2016 年の元旦です。椿の木の中からツィーという地鳴きが聞こえてきたため、のぞき込んでみると目の前にシロハラがいました。全く逃げるそぶりも見せずじっとしています。この頃からすでに人慣れしている個体だったようです。

その後、椿の木と小道を挟んだ向かいにあるピラカンサスの茂みに移動し、以後、越冬中はほぼピラカンサスの茂みで暮らしていました。ここは相当居心地が良かったのか、5 年間ずっと変わりませんでした（写真 4）。

写真 1：2016/01/24

木の根元の目立つところで　ぼーっとしていたり、落ちているピラカンサスの実を拾っていたりで、人や散歩の犬がすぐそばを通っても全く動じず、隠れようともしません。なかなかに肝の据わった個体であったと思います。今回の写真はすべて 400mm（クロップで 600mm）のノートリミングです。どこまで近づいても逃げないため心配になるくらいでした。

渡りの時期が近づくとピラカンサスの茂みを出て、近くの原っぱで餌を探すことが多くなります。ミミズや昆虫、時にはカエルを食べるなど渡りに備

目次

垂坂公園　シロハラの５年間----------2
表紙の言葉 ----------2
アカハラの亜種オオアカハラについて ----------4
はじめまして----------5
リュウキュウサンショウクイの観察日記 ----------6
県営鈴鹿青少年の森への
　　サッカースタジアム建設について ---------7
サギ類のコロニーについて ----------8
チョウゲンボウの営巣（2021 年）----------9
ほのぼの鳥さん Watching ---------- 10
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
連載第 25 回 メダイチドリとオオメダイチドリ ---12
今季のシロチドリの繁殖---------- 16
日本野鳥の会三重　2021 年度総会 報告 ---------- 17
事務局だより---------- 17
松阪・道の駅　飯高駅へ
　　「ツバメの子育て見守り」感謝状---------- 18
ツバメの子育てにＳＯＳ？？ ---------- 18
会員を増やす取り組みについて ---------- 19
野鳥記録----------20
危機の鳥、アカハジロ---------- 24
探鳥会予告（2021 年 10 月～ 12 月）---------- 25
探鳥会報告（2021 年 5 月～ 2021 年 7 月）-------- 26
編集後記 ---------- 28

表紙の言葉

モズ

名張市　田中 豊成

モズを漢字で書くと、百舌と鵙になっています。時々モズが他の鳥の声で鳴くことを聞いたりしますね。季節はずれの鳥の声を聞くことがありますが、声の主がモズと分かると安心します。嘴は猛禽類と同じような形をしているから、モズは小さな猛禽だと勝手に思っています。主食は昆虫ですが、時には鳥を捕らえる事もあります。以前、捕らえたスズメを足で掴んで飛んでいるのを見たのが印象に残っています。鳥の声を真似るのは、外敵でないと油断させて襲うからでしょう。

夏場にはあまりモズの声が聞かれないが、毎年秋になると「キィー、キィー、キィー」と鳴くので、ああ秋が来たなと感じる事が多いです。

えて栄養を蓄えているのがよくわかりました。

２年目、同じ場所にシロハラがいたため撮影し、同じ個体だと断定できました。左目の下に白い羽が３つあるのが特徴です（写真 5）。最終的に 2019 年度まで５年間飛来し続けましたが、2020 年３月６日以降姿を確認できていないため、いずこかで落鳥したのだと思います（写真 2）。

写真 2：2020/03/06

表：　垂坂公園のシロハラ	
1年目：2015-2016	
初認	2016/1/1
	この間、観察日数 5日
終認	2016/4/24
2年目：2016-2017	
初認	2016/12/29
	この間、観察日数 8日
終認	2017/4/15
3年目：2017-2018	
初認	2017/11/23
	この間、観察日数 9日
終認	2018/4/21
4年目：2018-2019	
初認	2019/1/3
	この間、観察日数 4日
終認	2019/2/11
5年目：2019-2020	
初認	2020/2/22
	この間、観察日数 4日
終認	2020/3/6

５年にわたって間近に観察させてもらえたことは幸運であったと感じます。最後に雌雄の判断ですが、（5 年間変わらず）頭が薄いグレーであり、喉のあたりに縦斑が認められることから雌であると思われます。普通種であっても観察を続けることで思わぬ発見があるものだと私は考えております。野鳥の生活に影響を与えないような観察を今後も続けていきたいと思います。

写真 3：2016/02/08

写真 4：ピラカンサスの茂み

写真 5：2017/01/09

（**編集部付記：**1 年目の写真（写真 1、3）を見ると大雨覆の羽縁に白い縁があり、幼鳥、すなわち 2015 年の夏に生まれた個体であることがわかります。2 年目からは白い羽縁はありません。初年の冬から人をあまり恐れない個体であったのでしょう。なお、この紙面に掲載した写真の一部は細部が確認できるよう、トリミングしてあります。）

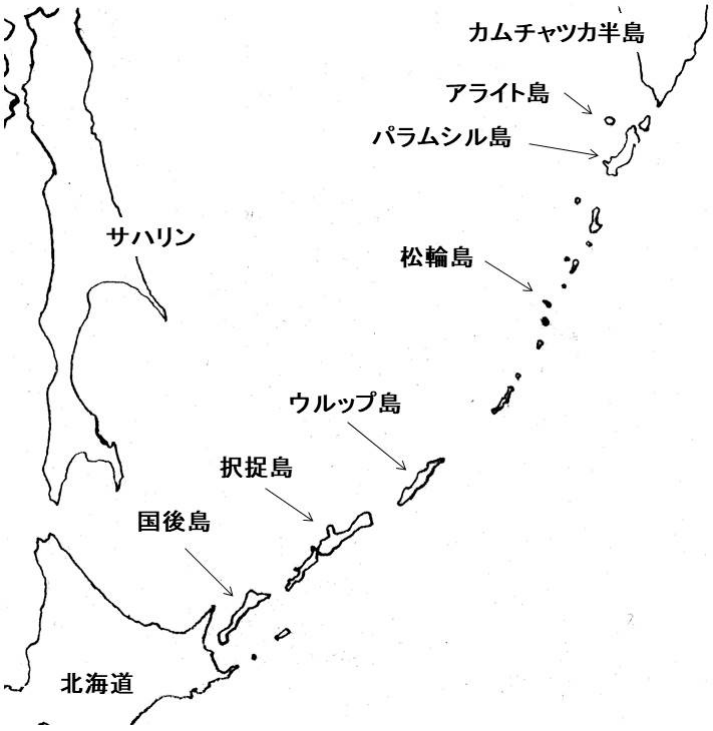
アカハラの亜種オオアカハラについて

津市　平井 正志

アカハラの亜種オオアカハラは山階芳麿により1929年に当時の鳥学会誌「鳥」に投稿された論文を基礎としている。彼は北千島で採集されたアカハラ雄成鳥5個体、およびメス成鳥1個体の剥製標本の計測値（翼長と嘴高）を北海道、サハリン、本州で採集されたアカハラ28個体の雄と、5個体のメスのそれを比較した。その結果、千島で採集されたアカハラは大きく、測定値は重複せず、区別できるとした。さらに羽色も前者では暗い（darker）とした。彼はこの亜種の生息範囲を北千島　パラシムル島、松輪島とし、おそらくウルップ島でも生息すると記述している。当時極めて著名な研究者、しかも皇族の論文でもあり、これ以降この亜種は学会内では認められたということであろう。

戦後　1979年、国立科学博物館の森岡弘之はそれを再検討し、論文を発表した。彼は繁殖期に採集された標本について検討した。北千島産の雄標本は4個体で、パラシムル島（北緯50° 20‘）産2個体、アライト島（北緯50° 51’）産、松輪島（北緯48° 5‘）産の各1個体で、翼長4個体の♂で126.5 － 131 mm. 嘴峰長3個体の♂で22.5 － 24 mm。嘴高3個体の♂で6.5 － 6.6 mmであった。一方、樺太・北海道・本州産の標本では翼長は17個体の♂で120- － 128.5 mm。嘴峰長は16個体の♂で21 － 24.5 mm。嘴高は46個体の♂で5.7 － 6.4㎜であった。嘴高を除くと測定値は重複し、測定値では識別できないとした。すなわち、山階の論文の否定である。

一方、羽色の色調については「北千島の4標本では , 頭上・顔・臆・喉が非常に濃い黒褐色で , 頭上の色は後頸以下のオリーブ褐色とはっきり異なる。樺太・北海道・本州で繁殖期 (5 － 7 月) に採集された♂成鳥の標本は , みな頭上から背にかけてほぼ一様なオリーブ褐色で , 頭上が背の色より著しく暗色なものはなかった。」とし、区別できるとした。この色の差についてはこの論文では著述だけで、色見本などに照らし合わせて、あるいは数値等で客観的に判断できるようにはなっていない。博物館の中で、特に調整された光源の下で、いくつもの標本と比べることができれば色の差からどちらの亜種か区別できるだろうが、野外では、捕獲できたとしても、識別できないであろう。まして、野外の写真からこの亜種の違いを判定するのは不可能と言わざるを得ない。



この亜種についてはもう一つの問題点がある。亜種アカハラと亜種オオアカハラの繁殖分布がどのようになっているか明確でない。この亜種を認める立場であっても、北海道は道東も含め亜種アカハラが繁殖するとされている。亜種オオアカハラとされる標本は松輪島以北で採集されている。すると松輪島より南、国後島までの千島列島ではどのように分布しているのか？森岡の記述によれば山階鳥研には中間と同定されたものがあるという。戦前においても千島列島における両亜種の分布については調べられていない。領土問題のある現在ではロシアの研究者の努力に待つしかないが、もし、測定値や羽色が連続的な変異を示すのであれば、亜種の設定は不可能であろう。

DNA多型と集団遺伝学に基づく解析という手法も考えられるが、それにしても亜種オオアカハラとされる北千島産標本は現状では数個体しかなく、この手法も困難であろう。近代的科学にもとづく亜種の設定は、今しばらく待つべきであろう。

参考文献

山階芳麿 1929　再び千島列島産鳥類に就いて　附アカハラの新亜種の記載。　鳥 6: 145-160.
森岡弘之　1979 日本産鳥類の分類・分布的研究 1．オオアカハラについて。　Tori 28: 125-129.

はじめまして

伊勢市　中西 まほ

2021 年 4 月に入会させていただきました。鳥の追っかけは今年に入ってから始めたばかり。公園のムクドリを「珍鳥かしら？」と二度見、三度見してしまう超初心者です。

サギの親子

伊勢の倉田山公園には、サギやカワウのコロニーがあり、5 月から 7 月は婚姻色の美しいサギたち、エサをねだる可愛いヒナたちでにぎわいます。道路からすぐ近くの場所で営巣してくれるので、へっぽこバーダーの私でもその一部始終を楽しく観察することができました。

チュウダイサギは、どこにでもいるシラサギという認識しかなかったのですが、間近で見ると美しいエメラルドブルーの目先、繊細なレースの飾り羽根がふわぁーっと風に広がる様子にうっとり！

ゴイサギは、今までまともに見たことがなく、真っ青な羽根と白いアンテナ（冠羽）に「宇宙から飛んできたペンギン？」と目を疑いました…笑

ゴイサギ

オオルリの幼鳥

また、幼鳥のホシゴイとの落差にもびっくりしました。

虜になってしまうバーダーさんも多いらしい伊勢の夏の山ですが、鳥さんにめぐりあうには、私には険しい道のりでした。それでも、やっとのことで、オオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、アオバズクに出会うことができました。キビタキは、予想以上に小さく、すばしっこく…オオルリは逆光で黒ルリにサンコウチョウは、ホイホイ鳴くわりにはホイホイと姿を見せてはくれず…

その中でも、アオバズクは日中にもかかわらず「ホゥホゥ」とまぁるい目で出迎えてくれました。そして、天使のように微笑みかけてくれたのは、オオルリのおチビちゃん！見つけたときは、オオルリのメス？と思ったのですが、よくよく見ると翼は青く、巣立ったばかりの幼鳥だと思いました。

まだあどけない表情が愛らしい、今夏いちばんのお気に入り写真です。

リュウキュウサンショウクイの観察日記

志摩市　濱屋 勝則

2021 年 3 月 26 日（初認）

志摩市浜島町の自宅裏ウバメガシの枝に見知らぬ野鳥を発見！ 聞きなれない鳴き声だと窓の外を伺い、見つけ急いで写真を撮るが、振り向き顔のみ。写真を見返してみるが、正体が分からず。複数の知人に写真送り、見てもらう。その後にサンショウクイだと分かる。

その後はしばらく特に気にとめずにすごしていた。

2021.03.26　初認

4 月 3 日

写真送っていた野鳥の会の先輩から連絡が有り、サンショウウイではあるが少し疑問があるとの返事をいただいた。

4 月 4 日

自宅裏から 3 月 26 日に聞いたのと同じ鳴き声が聞こえ、カラスザンショウの木にとまって居るのを見つける。今回は、ほぼ目線の高さで伺えカメラに収める事ができた。

2021.04.04　２度目確認

早速と先日の先輩に写真を送り見ていただいた。全身の写真が綺麗に撮れていたので正体の判明がハッキリするかと思った。その後にサンショウクイの亜種リュウキュウサンショウクイだと判明した。

2021.04.04　リュウキュウサンショウクイと判明

4 月 6 日

自宅の隣の山朽木のてっぺんにリュウキュウサンショウクイを発見。

2021.04.06　３度目確認

4 月 7 日

前日と同じ朽木のてっぺんに留まっているリュウキュウサンショウクイを発見。しばらく撮影していると今回はもう 1 羽が現れ、2 羽が横枝に一緒に並んでとまった。この時 2 羽はそれぞれが餌をくわえていて、片方がもう片方に餌を渡した。その後は朽木から飛びその場を離れてしまった

2021.04.07　４度目つがいで確認

4 月 16 日

前回の観察から３日空けて、今日はカラスザンショウの近くのウバメガシの枝に１羽が鳴いて留まっているのを家内が見つけ、自分も一緒にと伺っていると直ぐに飛んで行ってしまった。

AM11：30 頃、自分が勤務中に自宅に居た家内が朝に留まっていた辺りでまた鳴いてとまっている

2021.04.12　６度目確認

リュウキュウサンショウクイを発見！こちらに気付いたかの様に飛んで行ったとの事。

この間　４月 18 日、21 日、26 日、30 日、５月４日、８日、13 日にも姿あるいは鳴き声を確認した。

5 月 14 日

AM7:20 に２羽が鳴いて飛んで来た 朽ち木に留まった

5 月 19 日

AM7:30 に林の奥から鳴き声が聞こえた。

5 月 26 日

５月 19 日以降は声も姿も確認できず。姿または鳴き声で確認した日は合計 16 日でした。この２か月の間に繁殖をしたかどうかは不明ですが、記録終了。

県営鈴鹿青少年の森へのサッカースタジアム建設について

津市　平井 正志

県営鈴鹿青少年の森は、鈴鹿サーキットに隣接する丘陵地に 1972 年に作られた。敷地内に道伯池とそれに隣接する林を含んでいる。大半は落葉樹の二次林で、コナラ、アカメガシワ、アカマツなどが生育している。公園とするためにソメイヨシノやアジサイなどいくつかの園芸樹木が植栽されている。散策路が森の中を縦横に通じている。当地では鈴鹿市主催の探鳥会が開かれ、鈴鹿市在住の当会会員がリーダーを務めている。観察される鳥類は主に普通種であるが、40 種が記録されている。ただ、特に貴重な鳥類は記録されていない。また、当地はウォーキングやジョギングの人も多い。

2020 年 10 月 28 日　市長と株式会社アンリミテッドとの間で鈴鹿県営青少年の森に鈴鹿ポイントゲッターズのスタジアムを作るという合意が新聞発表された。事務方ではそれ以前から打ち合わせが進んでいたとのことである。鈴鹿ポイントゲッターズは現在 JFL に所属するチームで、将来 J リーグ昇格をめざしているとのことである。

青少年の森の用途の変更について事前に市民、県民の意見は聴取すらされておらず、またこの合意について新聞報道がされただけで鈴鹿市や県は市民には直接は伝えていない。当初 2021 年６月着工、22 年９月完成の予定だったが、６月末でも着工していない。また、残された森についても何らかの手を加える構想が行政当局側にありそうである。

鈴鹿市在住の会員からは森を残してほしいとの声も強く、スタジアム建設に反対する声が上がっている。

追記：８月３日の中日新聞によると９月に着工、2023 年２月完成の予定とのことである。

サギ類のコロニーについて

伊賀市　南 一朗

野鳥の中には繁殖するときにだけ、群れを作るものがあります。このような繁殖のために作られる群れをコロニーと呼びます。このようなコロニーを作る野鳥としてサギ類やカワウが代表です。私の住んでいる伊賀市には現在４～５か所サギのコロニーがあります。大きなところでは30個以上の巣があるところもありすごい数のサギ達が飛び交っています。もっと前にはこんななコロニーが川の中州や原野、森などにありましたが、宅地造成のため山を切り開いたり、台風での災害による河川改修のために伐採されたり、コロニーのある木が枯れてしまったり、最近では太陽光パネルの設置のための伐採などでだんだんとコロニーの数が減ってきています。そのため、住宅地に近いところにコロニー作られた場合は周辺の住民に糞・鳴き声・臭いなどの生活被害をもたらす場合があると聞きます。

サギのコロニー

サギの幼鳥

幸い伊賀市のコロニーは住宅地付近にはあまりありません。サギ類は特に絶滅の危険や保護が必要な鳥ではなく、どこででもみられる鳥です。またこのようなコロニーを作って子育てするため、また大きな鳥であるので子育ての観察をするのには最適です。またこれからもサギ達の春の子育てを見守っていきたいなと思っています

チョウゲンボウの営巣（2021 年）

四日市市　笹間 俊秋

2020 年の春、四日市市の陸橋で営巣していたチョウゲンボウですが高架橋補修工事が始まったため巣立ちがあやぶまれました。しかし、工事関係者のご厚意で巣立ちするまでの間、工事を控えていただき無事５羽の幼鳥が巣立ちました。その工事も年末までには終了し、今年の繁殖は心配ないと思っていました。

しかし、2021 年２月末に四日市建設事務所の担当者から連絡があり、去年はチョウゲンボウの営巣とコロナで工事が中断し作業が一部残り、今年３月ごろから工事を再開したいので相談したいとのことでした。工事個所が残ってしまったことは事情が事情なので仕方がないことです。なので、「営巣の状況を見て４月中ごろより影響の無い場所から工事を進め、巣立ちを確認後に一気に工事を進める」と言うことで話がまとまりました。

４月１日に確認しに行くと、去年とは別のところで雌が抱卵しています。そして工事前に一同で、もう一度営巣場所を確認してから工事の手順を決めてもらいました。

４月 28 日から工事の準備が始まりました。
しかし、５月の連休が終わっても雌は雛の世話をしている気配がありません。まだ抱卵を続けているようです。去年、雛の姿が見られるようになった日より７日ほど遅れています。そして、５月８日にようやく雛の姿が確認できました。

雛に餌を与えるチョウゲンボウ雌

それからは雄の餌運びが本格的にはじまり、雛もすくすくと成長していきました。５月 21 日には雌も巣を離れて、周辺で狩りをするようになりました。雛は今年も５羽います。工事関係者の心配をよそに親たちはせっせと餌を運び続けます。その間工事は巣の中から見えない場所から進めていただきました。そして、６月１日には無事巣立ちを迎えました。去年より５日遅い巣立ちとなりました。

関係者の方の話では、この工事が終了すれば、しばらくは予定がないそうなので、来年からはチョウゲンボウも安心して営巣できることでしょう。

ようやく姿が見られた雛たち

無事、巣立ちした幼鳥たち

ほのぼの鳥さんWatching

名は体を表す？

松阪市 中村 真理子

今年の1月。
珍しいカモが来ているとのことで
見に行くことに。

正しいメジロガモはこちら

抹茶色かと思ったら赤っぽい焦げ茶。
メジロが目の周りの白より
体の抹茶色が印象強くて
つい抹茶色のカモなのかと。
私ならチョコレートガモって
命名するな。
それはそれで
チョコレート味するのかって
誤解を生みそう。

3月上旬、今度は
『クビワキンクロ』が出たとのこと。
クビワというからには
首に何かあるに違いない。

※ 想像するのは自由です。

僕たちは
オシャレさん
だから。

見えた!!
こ、これは…!!!

借り物

クビワじゃなくて
クチワでは!??

なんかいろいろ
突っ込みどころが多くて
納得いかないけど おかげで
名前 覚えられたからまあいいかな。

♪〜

フフーン♫

まだまだ想像力が
足りないよ。

シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化
―連載第 25 回 メダイチドリとオオメダイチドリ―

津市　今井 光昌

メダイチドリもオオメダイチドリも春秋に日本に渡来するチドリ科の旅鳥で、三重県でも海岸の砂浜や河口干潟で観察できます。満潮時には海岸のテトラポットや岩礁で見かけることもあります。メダイチドリは稀に内陸部の河川や水田に入ることもありますが、オオメダイチドリは砂質の強い干潟を好み、水田や湿地に入ることはまずありません。三重県の海辺では毎年少数のメダイチドリが越冬しますが、オオメダイチドリの越冬は一度もありません。両種は渡りの時期に行動を共にすることが多く、メダイチドリの群れにオオメダイチドリが混じることが多いです。また、両種は食性がよく似ており、ゴカイ類や、貝類、甲殻類、昆虫類などを捕食しています。メダイチドリは数十羽の群れでの渡来が多いですが、オオメダイチドリは渡来数も少なく 1-3 羽の小群が普通です。例外的に 2013 年秋の渡りでは津市の香良洲海岸にオオメダイチドリ幼鳥が 12 羽渡来し、メダイチドリ幼鳥 3 羽との混群で約 1 か月間滞在していました。香良洲海岸で両種の渡来数の逆転現象が起きたのはこの年だけでした。三重県で年間を通して見ることができるチドリ科の鳥には、シロチドリ、コチドリ、イカルチドリ、ケリなど、夏鳥として繁殖し、越冬する鳥たちもいますが、メダイチドリやダイゼンのように、三重県での繁殖はなくても少数が越冬し、一部の若い個体が越夏することで年間を通して観察できるチドリ科の鳥もいます。

図 1　メダイチドリとオオメダイチドリ
2007.05.22

図 1 は左がメダイチドリで右がオオメダイチドリです。オオメダイチドリはメダイチドリより体がやや大きく、嘴と足が長く、足の色が淡い傾向にあります。体形や嘴の長短、足色の差は姿勢や光の具合によって分からない場合もあるので、他の特徴も併せて両種を識別することになります。図 2 は穴からゴカイを引っ張り出すメダイチドリです。図 3 は砂浜海岸でコガネムシの幼虫を捕食するオオメダイチドリです。尚、捕食する餌の種類によって両種を識別することは出来ません。

図 2　メダイチドリ　成鳥夏羽　2019.04.25

図 3　オオメダイチドリ　幼鳥　2012.08.14

成鳥夏羽の比較

図 4　メダイチドリ　♂成鳥夏羽　2017.05.04

図 5　オオメダイチドリ　♂成鳥夏羽　2012.05.22

図 6　メダイチドリ　♂成鳥夏羽　2015.05.04

両種とも♂夏羽は後頸から胸が橙色で眼先と頬が黒いです（図 4-5）。

♀夏羽は♂の黒色部が褐色がかり、胸の橙色部は♂より淡いです（図 7-8）。

メダイチドリの♂成鳥夏羽には白い喉と橙色の胸の境に黒線がありますが、黒線が目立たない個体もいます。図 4 の♂夏羽は黒線が明瞭で、図 6 の個体は黒線が不明瞭ですが、前頭の黒色部や眼先の黒色、胸の橙味が強く♂と識別できます。尚、耳羽の黒色部に少し褐色味がありますが、♂はそのような個体が多いです。♀は喉と胸の境の黒線がありません（図 7）。オオメダイチドリは♂も♀も黒線はありません (図 5, 図 8)。

図 7　メダイチドリ　♀成鳥夏羽　2015.05.04

図 8　オオメダイチドリ　♀成鳥夏羽　2015.05.20

画像（図 9-12）は本来の羽色を忠実に再現出来ていませんが、メダイチドリは暗色気味で、オオメダイチドリは淡く見えます。顔の黒色部や褐色部の模様が♂・♀とも両種はよく似ており、顔の模様では両種の識別は困難です。尚、図 10 のメダイチドリ♀は前頭に黒色の斑が少し出ていますが、メダイチドリ♀もオオメダイチドリ♀も前頭に全く黒斑がないものから細く出ているものまでいます。

図 9　メダイチドリ
成鳥夏羽♂

図 10　メダイチドリ
成鳥夏羽♀

図 11　オオメダイチドリ
成鳥夏羽♂

図 12　オオメダイチドリ
成鳥夏羽♀

成鳥冬羽の比較

図 13　メダイチドリ　成鳥冬羽
2010.11.06

図 14　オオメダイチドリ　成鳥冬羽に換羽中
2019.09.09

図 15　メダイチドリ　成鳥冬羽　2010.08.22

メダイチドリもオオメダイチドリも冬羽は雌雄共に顔の黒色部や橙色部が似たような褐色になるため、羽色による雌雄の識別が難しくなります（図 13-14）。また、両種の冬羽は似ていますが、メダイチドリはオオメダイチドリより嘴が短く、嘴の先端が膨らんでいます。図 15 のメダイチドリは 8 月 22 日ですが、冬羽への換羽が随分進んでいます。冬羽の上面は一様な灰褐色ですが、フレッシュな冬羽には淡い淡色の羽縁が出ます（図 15）。

幼鳥の比較

図 16　メダイチドリ　幼鳥　2009.09.11

図 17　オオメダイチドリ　幼鳥　2011.07.26

メダイチドリ幼鳥は上面各羽に明瞭な淡色の羽縁があり、羽縁の内側に褐色のサブターミナルバンドがあります（図 16）。オオメダイチドリ幼鳥の羽縁は太く淡い茶褐色で、肩羽の羽縁の内側に黒褐色のサブターミナルバンドがありますが、メダイチドリほどには目立ちません（図 17-18）。メダイチドリ幼鳥の羽先は丸く、オオメダイチドリ幼鳥の羽先は尖り気味です。また、オオメダイチドリはメダイチドリより体が大きいのが普通ですが、オオメダイチドリより体が大きいメダイチドリも結構います。メダイチドリは数亜種が渡来していると言われています。オオメダイチドリと大きさが変わらず、羽色が淡色気味で、足色が淡く、嘴が長く、スマートな体形のオオメダイチドリ似の個体もいます。そうした個体は幼鳥に多いようです。

図 18　オオメダイチドリ　幼鳥　2011.07.26

第 1 回冬羽の比較

図 19 のメダイチドリは肩羽の多くが灰褐色の冬羽に換羽しており、雨覆は褐色で白い羽縁のある幼羽が多く残っています。図 20 のオオメダイチドリも肩羽の多くが細い羽縁のある新しい冬羽に換羽しており、雨覆には白い羽縁が目立つ幼羽が残っています。

図 19　メダイチドリ　第 1 回冬羽　2011.12.30

図 20　オオメダイチドリ　第 1 回冬羽　2011.10.04

第１回夏羽の比較

図 21　メダイチドリ　第１回夏羽　2020.05.11

図 22　オオメダイチドリ　第１回夏羽　2012.05.18

図 21 のメダイチドリは小・中雨覆に擦れた幼羽が残っています。胸と喉の境界部に黒線があり♂と判断できます。図 22 のオオメダイチドリも冬羽のような羽色です。特に激しく摩耗した羽も見えず、このような羽衣だと撮影年月日がないと第１回夏羽と識別できそうもありません。

最後に

図 23 は海岸の砂浜に並ぶ２羽のオオメダイチドリです。左は５月 20 日になっても冬羽のような羽色の第１回夏羽で、右は顔の黒色部が褐色で胸の橙色部が淡い♀成鳥夏羽です。２羽の立ち姿がいかにもオオメダイチドリらしいです。静止時の体形がメダイチドリは丸味を帯びて見え、オオメダイチドリはスマートな体形に見えますが、体形や姿勢の違いを含めて、何事にも例外はあるので注意は必要です。

図 23　オオメダイチドリ
第１回夏羽（左）と成鳥夏羽（右）　2015.05.20

今季のシロチドリの繁殖

わずかではあるが、シロチドリの繁殖が見られました。普通は５月 20 日頃、ヒナが生まれるのですが、今年の報告は遅いヒナが多かったようです。

会員の方で、これ以外のヒナを見た方は情報をお寄せください。　（津市　平井正志）

2021年シロチドリの繁殖

日時	場所	ヒナなど			親鳥など	報告者
2021/5/5	白塚海岸	ヒナ	2	羽		西口恵子
2021/5/25	安濃川河口砂州	抱卵	1	羽		平井正志
2021/6/17	白塚海岸	擬傷（オス）	1	羽		平井正志
2021/6/18	白塚海岸	ヒナ	1	羽	親鳥メス1羽	平井正志
2021/6/27	阿漕浦	ヒナ	3	羽	2つがい	西口恵子
2021/7/26	香良洲海岸	ヒナ	1	羽	親鳥2羽	中西まほ

日本野鳥の会三重　2021 年度総会 報告

事務局

2021 年度の総会はコロナウイルス拡大により、残念ながら、一堂に会しての会議を開くことができませんでした。会員に総会文書一式を郵送し、書面議決とさせていただきました。議決の結果は以下の通りでした。

投票総数（返信された葉書の数）　119

2020 年度活動報告　賛成　119　反対　0
2020 年度決算報告　賛成　119　反対　0
2021 年度活動計画　賛成　119　反対　0
2021 年度予算案　賛成　119　反対　0
2021 年度役員選出　賛成　119　反対　0

以上であり、議案はすべて可決され、役員も全員が信任されました。

（事務局）

日本野鳥の会　三重　令和3年度（2021年度）予算書

令和3年度　自2021年4月1日　至2022年3月31日　　単位：円

科　目	2年度決算	3年度予算	比較増減	備　考	令和3年度予算会計区分	
	一般・特別合算	一般・特別合算			一般会計	特別会計
＜事業高＞						
支部会費	534,650	537,000	2,350	2000円／1人	537,000	0
受託収入	635,500	640,000	4,500	カワウ・ガンカモ調査	0	640,000
受取補助金	0	120,000	120,000	サントリー助成金	120,000	0
受取寄付金	5,480	0	−5,480		0	0
事業高合計	1,175,630	1,297,000	121,370		657,000	640,000
事業利益	1,175,630	1,297,000	121,370		657,000	640,000
＜事業管理費＞						
支払調査費	348,995	353,000	4,005	カワウ・ガンカモ調査	0	353,000
通信費	265,424	213,000	−52,424	しろちどり発行4回	163,000	50,000
印刷費	246,260	225,000	−21,260	しろちどり発行4回	221,000	4,000
消耗品費	77,929	70,000	−7,929		50,000	20,000
会場費	9,830	12,000	2,170		7,000	5,000
会議費	3,654	5,000	1,346		4,000	1,000
旅費交通費	136,100	387,000	250,900	中部B、旅行助成	257,000	130,000
支払手数料	22,000	22,000	0		15,000	7,000
講師謝礼金	0	33,000	33,000		33,000	0
図書費	0	3,000	3,000		2,000	1,000
諸会費	5,000	5,000	0		5,000	0
雑費	53,812	24,000	−29,812		18,000	6,000
事務費	40,000	40,000	0		0	40,000
保険費	8,750	10,000	1,250		5,000	5,000
サントリー事業費	0	120,000	120,000	サントリー助成金	120,000	0
一般管理費合計	1,217,754	1,522,000	304,246		900,000	622,000
事業総利益	−42,124	−225,000	−182,876		−243,000	18,000
＜事業外収益＞						
受取利息	14	0	−14		0	0
雑収入	10,010	0			0	0
事業外収益合計	10,024	0	−14		0	0
当期純利益	−32,100	−225,000	−182,890		−243,000	18,000
＜税金等＞						
法人税等	75,700	75,000	−75,700		0	75,000
税引後利益	−107,800	−300,000	−107,190		−243,000	−57,000

＊一般会計で243,000円の赤字、特別会計で67,000の赤字、合計税引後利益は△300,000円となる。

事務局だより

活動の記録（2021 年 5 月～8 月）

2021 年

5 /22　会計監査　（監事２名・事務局２名）　松阪市内
6/ 3　会報誌「しろちどり第 109 号」　発行・発送作業
6/ 4　猛禽類観察 (猛禽類保護のため中断していた公共工事が再開)
6/10　本部の「ツバメの子育て応援事業」に参加
「道の駅　飯高駅」へ　ツバメの見守り感謝状を贈呈　（代表 / 事務局 / 松阪地区）
7 / 2　編集会議
7 / 3　「鈴鹿青少年の森」問題　ホームページへ掲載
7 / 5　県へ出向き「鈴鹿青少年の森」問題について県担当者から話を聞いた　（代表）
7 /17　ミヤコドリ一斉調査（四日市市～明和町）
8 / 1 ～　会報誌「しろちどり第 110 号」編集作業
8 /15 ～　海岸パンフレット改訂版　作成作業
8 /26　「（仮称）三重松阪蓮ウインドファーム発電所計画段階環境配慮書」に対する
意見書を（公財）日本野鳥の会との連名でリニューアブル・ジャパンへ提出

松阪・道の駅　飯高駅へ「ツバメの子育て見守り」感謝状

事務局　西村 泉

2021 年 6 月 10 日（木）道の駅　飯高駅へ「ツバメの子育て見守り」感謝状を贈呈しました。

昔からツバメは、田畑の害虫を食べてくれる益鳥として人々から大事にされてきました。しかし近年では、里山の開発や農耕地の減少、また巣づくりに適さない新建材を使った家屋の増加により、ツバメの子育て環境が大きく変化しました。さらにツバメの巣が、不衛生との理由で巣を落とす事例も報告されています。（公財）日本野鳥の会は、2019 年度より「ツバメの子育て応援事業」として、ツバメの子育てを見守っている団体（企業・施設）を表彰しています。今年度、当会もこの事業に初めて参加。県内のおもな施設を検討した結果、松阪市にある「道の駅　飯高駅」を推薦しました。

「道の駅　飯高駅」では、開業当時（2005 年）からたくさんのツバメが巣をつくり、毎年ツバメの巣の下にフン除け棚や注意看板の設置、清掃作業を行っています。事前に施設の皆さんにお話しをお聞きしたところ、駅長さんはじめ従業員の皆さんは、毎年ツバメが来ることを心待ちにされ、温かく見守っている様子が伺えました。このことが本部に認められ、感謝状贈呈の運びとなりました。

当日は、当会の平井正志代表から、田中正一駅長へ「感謝状」と、当会から「ツバメのポスターパネル」を贈呈しました。ちなみに、このパネルは、松阪地区会員の中村真理子さんに作成していただきました。また、報道関係者も多数（中日新聞、伊勢新聞、

朝日新聞、読売新聞、夕刊三重、松阪ケーブルテレビ）取材にきてくれました。翌日、どの新聞にも大きく取り上げられ、松阪ケーブルテレビでは、感謝状贈呈の様子に加え、飯高駅駅長、当会代表　それぞれのインタビューも放映されました。

田中駅長は、「これまでとくに意識することなく、ツバメを見守ってきた。今後もできるだけ自然体で保護していきたい」と話され、平井代表は、「今の子どもたちにもっと身近にいるツバメに関心をもってもらいたい」と訴えました。

この事業により、ツバメの子育てを応援する輪が広まればと期待しています。

ツバメの子育てにＳＯＳ？？

玉城町　西村 泉

2019 年夏、とある「道の駅」に勤める方から電話をいただいた。それは、早朝 「道の駅」にイソヒヨドリがきてツバメのヒナをおそうというのだ。お話を伺うと、「カラスは巣を落としてヒナをおそうが、イソヒヨドリはツバメとほぼ同じ大きさなので、巣は壊さずヒナだけさらっていく」という。ところが、肝心のイソヒヨドリがツバメのヒナを奪う場面は見ていないらしい。にわかには信じられなかったが、しばらくすると他県でも同様の事例が報告されていた。

イソヒヨドリは、全長 23㎝。オスは頭や背がブルー、腹はレンガ色。さえずりは、オオルリを思わせるような美声。海岸部でよく見られる。しかし、1980 ～ 1990 年代より生息域の拡大が始まり、海岸部よりずいぶん内陸部まできて繁殖していた。現在、南勢地方では、街の中心部の至るところでイソヒヨドリを見ることができる。ツバメが人家の軒先で子育てするのに対し、イソヒヨドリは建物のかなり高い場所で繁殖するのであまり人が気づきにくい。ツバメと同時期に、同じような環境で子育てす

るイソヒヨドリにとって、ツバメのヒナは容易に確保できる格好の獲物なのだろう。

長年、「道の駅」でツバメの子育てを見守ってこられたこの方は、「いままでツバメのヒナが孵ることを楽しみにしてきたけど、こんなことは初めて、とてもショック」とおっしゃった。さらに、2021年夏、「今年は、とうとうヒナの巣立ちを見ることができなかった」ととても落胆されていた。また、最近　別の方からの電話でも、「一瞬のうちに、ツバメのヒナをとられた。どうもおそったのは、イソヒヨドリかムクドリらしい。またツバメは来てくれるだろうか？」と沈んだ声で尋ねてこられた。この方も毎日、ツバメの子育てを楽しみにしていたようだった。また来てくれると願いたい。けれどツバメの子育てをカラスやヘビから守る対策はあるが、今のところイソヒヨドリの対策はなさそうである。今後、イソヒヨドリはさらに分布を広げるのか、ツバメはこのまま減少していくのか、注視していきたい。

会員を増やす取り組みについて

このたびは、「2021年度日本野鳥の会総会議決書」であるハガキをお送りいただき、ありがとうございました。6月末までに返信されたハガキ119通、すべて賛成でした。会の運営についてご理解・ご承認をいただき感謝申し上げます。ご意見では、新型コロナウイルス感染拡大で中止している探鳥会の再開を望む声が多数寄せられました。一方全国的な会員減少を心配され、当会の具体的な方策についてご質問がありました。この場で、会員を増やすための具体的な活動についてご説明させていただきます。

1993年日本野鳥の会三重県支部（当時）が発足。前身の三重野鳥の会から移行した会員約200名からスタート、90年代後半には約500名近い大所帯となりました。ところがピークを迎えてから緩やかに下降し始め、2021年5月現在では約300名（家族会員を含めると370名）と大幅に減少しました。全国的にも減少傾向は続いており、おもな要因は少子・高齢化、趣味・志向の多様化が考えられます。大半の支部では、担い手不足が深刻で対応に四苦八苦しているのが現状のようです。

2018年度より（公財）日本野鳥の会（以下、本部）は、「初心者向けバードウォッチング」と称し、全国の支部が参加する企画を開始しました。本部は広報を担い、過去に野鳥の会へ問い合わせがあった方や会の商品購入された方などを対象にダイレクトメールを送り、本部のホームページで全国の「初心者向けバードウォッチング探鳥会」を紹介しています。

当会では、年数回「初心者向けバードウォッチング」に適した探鳥会を行ってきました。2019年度からは「おためし入会制度」を準備、会員を増やすための方策をとってきました。「おためし入会制度」とは、1年間1000円で文字通り試験的にご入会いただき、会報誌「しろちどり」の送付など正規会員と同等のサービスが受けられます。ただし、この制度の利用は1回のみ1年間限りです。

2019年度は初心者向け探鳥会が4回開催され、「おためし会員」になった方は10名、1年経過後、正規会員になった方はわずか2名でした。決して有効とはいえないかもしれませんが、これからもこの制度を利用した探鳥会を行っていきたいと考えています。

その後、2020年3月から新型コロナウイルス感染が拡大し、残念ながら探鳥会を中止せざるを得ませんでした。この1年、活動が休止中にもかかわらず皮肉なことに例年より新入会員が増えましたが、同時に退会者も少なくないので、全体の会員数は微増あるいは横ばいといった依然厳しい状況が続いています。一番の課題は、会員さんがいかに長く定着できるかどうかであり、一日も早い探鳥会など活動の再開が待ち望まれます。

これまで会員の皆様には、入会の折アンケートをお願いしてきました。「入会のきっかけは？」の問いに大半の方が「探鳥会に参加して」、次に多いのが「野鳥の会のPRなどを見て」または「当会のホームページを見て」でした。

以上のことから、今後も初心者向け探鳥会やホームページの充実に努めながら、会員を増やすための模索を続けていきたいと思います。また、皆様も会員増加のためのアイディア提供、友人・知人の方へ「野鳥の会」のご紹介等、ご協力をよろしくお願いいたします。

（事務局　西村 泉）

野鳥記録（2021 年 5 月 1 日から 2021 年 8 月 15 日までに報告があったもの）

鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者氏名	脚注
アカハラ	3	2021/04/30	四日市市 垂坂公園		今西 純一	1
センダイムシクイ	1	2021/04/30	四日市市 垂坂公園		今西 純一	2
コルリ	1	2021/05/01	四日市市 垂坂公園		今西 純一	3
ヤブサメ	1	2021/05/01	四日市市 垂坂公園		今西 純一	4
オオヨシキリ	1	2021/05/02	四日市市 垂坂公園	雄	今西 純一	5
アオバト	1	2021/05/02	四日市市 垂坂公園	雄	今西 純一	6
コサメビタキ	2	2021/05/03	四日市市 垂坂公園		今西 純一	7
オオタカ	2	2021/05/03	四日市市 垂坂公園	成鳥 1，幼鳥 1	今西 純一	8
ハヤブサ	1	2021/04/29	四日市市 鈴鹿川派川		寺尾 幸太朗	9
キビタキ	1	2021/05/03	津市	雄	寺尾 幸太朗	10
オオタカ	1	2021/05/04	鈴鹿市 青少年の森		寺尾 幸太朗	11
オオルリ	1	2021/05/04	鈴鹿市 青少年の森	雌	寺尾 幸太朗	12
ミヤコドリ	1	2021/05/04	松阪市 雲出川河口	T6	田口 喜美恵	13
イソヒヨドリ	2	2021/05/13	伊賀市		前澤 昭彦	14
サシバ	1	2021/03/28	伊賀市	雄	前澤 昭彦	15
オオアジサシ	7	2020/09/18	松阪市 五主海岸		鈴木 健真	16
ゴイサギ	2	2020/09/20	いなべ市 両ヶ池		鈴木 健真	17
アトリ	1	2020/10/10	いなべ市大安町		鈴木 健真	18
エゾビタキ	1	2020/10/11	いなべ市大安町		鈴木 健真	19
シロハラ	1	2020/10/22	いなべ市大安町		鈴木 健真	20
オオハシシギ	1	2020/10/31	松阪市 金剛川河口		鈴木 健真	21
ムギマキ	1	2020/10/28	菰野町 三重県民の森		鈴木 健真	22
トモエガモ	2	2020/11/05	四日市市 北勢中央公園	雄 1，雌 1	鈴木 健真	23
チュウヒ	1	2021/01/02	松阪市 五主海岸		鈴木 健真	24
アカハラ	1	2021/01/02	津市 安濃川河口		鈴木 健真	25
トラツグミ	1	2021/01/02	津市 津偕楽公園		鈴木 健真	26
カヤクグリ	1	2021/01/11	いなべ市北勢町		鈴木 健真	27
アカエリカイツブリ	1	2021/01/12	津市 安濃川河口		鈴木 健真	28
トモエガモ	17	2020/12/20	四日市市 北勢中央公園	雄 8，雌 9	鈴木 健真	29
クビワキンクロ	1	2021/01/17	いなべ市 両ヶ池	雌	鈴木 健真	30
ヒレンジャク	16	2021/02/07	伊勢市 宮川河口		鈴木 健真	31
キレンジャク	3	2021/02/07	伊勢市 宮川河口		鈴木 健真	32
シベリアオオハシシギ	1	2021/05/06	明和町		鈴木 健真	33
ダイゼン	52	2021/05/06	明和町		鈴木 健真	34
オオソリハシシギ	5	2021/05/06	松阪市 金剛川河口		鈴木 健真	35
キアシシギ	205	2021/05/06	松阪市 金剛川河口		鈴木 健真	36
キアシシギ	145	2021/05/06	松阪市 五主海岸		鈴木 健真	37
トウネン	3	2021/05/06	松阪市 五主海岸		鈴木 健真	38
ウソ	1	2021/03/23	菰野町 朝明渓谷		鈴木 健真	39
ハシボソガラス	1	2021/05/23	四日市市 垂坂公園		今西 純一	40
ヤイロチョウ	1	2021/05/22	南勢地区	成鳥	西村 四郎	41

鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者氏名	脚注
ショウドウツバメ	1	2021/05/22	四日市市三田町		笹間 俊秋	42
セイタカシギ	1	2021/05/18	四日市市三田町		笹間 俊秋	43
フクロウ	3	2021/05/19	北勢地区	成鳥 1、幼鳥 2	笹間 俊秋	44
カッコウ	1	2021/05/26	津市 青山高原		前田 聰	45
シベリアオオハシシギ	1	2021/05/06	明和町		前田 聰・シズコ	46
フクロウ	1	2021/05/15	北勢地区	幼鳥	今西 純一	47
ハシボソガラス	1	2021/06/05	四日市市 垂坂公園		今西 純一	48
クロツグミ	1	2021/06/08	四日市市水沢町	雌	笹間 俊秋	49
ケリ	4	2021/05/08	松阪市 ベルファーム	親鳥、雛 2、卵 2	野村 浩	50
クマタカ	1	2021/06/23	鈴鹿山脈		笹間 俊秋	51
コウライウグイス	1	2021/06/26	志摩市		濱屋 勝則	52
アオバズク	1	2021/07/25	四日市市		岡崎 かおり	53
コマドリ	1	2021/04/22	菰野町 三重県民の森	雄	三曽田 明	54
バン	4	2021/07/10	四日市市高見台 調整池	幼鳥と親鳥	三曽田 明	55
キンクロハジロ	2	2021/08/01	四日市市 北勢中央公園	雄、雌	三曽田 明	56

「野鳥記録では投稿された中から記録として重要であると考えられるものに絞り、掲載します。普通種であっても、初認、終認、多数個体など記録として価値のあるものは掲載します。（編集部）」

脚注：脚注はスペースを有効に使うため、記録として必要最小限の言葉だけにし、また語尾も「です、ます」でなしに「である」としました。さらに、投稿者の感動などは割愛してあります。ご了承ください。（編集部）

1. 3 か所で確認。警戒心の強さ、性格に違いがある。
2. 4/18 に報告済み。小声で鳴きながら餌を探して移動していた。鳴いてくれると識別できる。
3. コマドリかと思ったが、近くで聞くとチッチッチッチという前奏があった。別の 2 か所でそれぞれ複数の声が聞こえていたので何羽かいると思われた。
4. 2019 年にも声を聞いたが録音できなかったため投稿せず。記録としては 2 年ぶり。同じ場所でコルリも鳴いていた。（なお、コルリも 2 年ぶり）
5. 珍しい種ではないが、垂坂公園では初記録。場所は垂坂公園横の谷田池。そこも含めて垂坂公園と考えている。垂坂公園にて確認できた野鳥は 91 種。
6. 声だけの確認。姿を見られることは滅多にない。
7. 小声でさえずっていた。（写真では喉が膨らんでいる）翌日にはいなくなった。
8. まず成鳥が飛んでいき、その後を幼鳥が追いかけていった。飛んでいった先の高木の上でよく鳴いていたが、営巣は確認できず。
9. カラスと喧嘩していた。
10. 建物の窓に衝突後、木にとまった。脳震盪を起こしたのか、逃げずにしばらくじっとしていた。
11. 公園の上空の高いところで旋回していた。
12. 茂みから出てきて一瞬木にとまってから飛んで行った。
13. 左足に T6 と記載された黄色のフラッグ。河口干潟にいた 6 羽のミヤコドリのうちの 1 羽。
14. 隣家の軒下で営巣。育雛を確認した。
17. 第 1 回夏羽が 2 羽葦原に。
18. アトリの初認。
20. シロハラの初認。
38. 夏羽の赤いトウネンが 3 羽テトラの上にいた。
40. イスカのように嘴が交差したハシボソガラス。警戒心が強かった。

41.　30 分程囀りは聞こえていた。
42. 渡りの時期を過ぎていたが、埋立地で普通のツバメに混じり 1 羽だけショウドウツバメが餌をとっていた。
43. 以前、この溜池では繁殖したことがあり、繁殖の可能性あり。
44. 以前からこの神社ではフクロウが繁殖している。巣立ちを確認した。
45. 盛んにカッコウの鳴き声が聞こえ、樹木の上に停まる姿を観察した。
46. この地方では、今季 3 回目の観察とのことであった。
47. 今年は 3 羽の雛がいたそうですが確認できたのは 2 羽。
49. 渓流沿いの落ち葉をひっくり返して餌を探していた。
50. 農業公園ベルファームで、今年もケリが繁殖。4 卵とも無事孵化し、巣立った。
51.　3 月の初めより飛翔を確認していたが、今月に入り餌運びが見られた。繁殖は順調らしい。
52. 自宅で変わったさえずりが聞こえたので録音して確認した。
53. 夜、神社からアオバズクの声が聞こえた。
54. 毎年 4 月中旬 ~GW 頃に鳴き声が聞こえるのだが、全身の写真が撮れたのは初めて (なんと車道にいた)。
55.　2020 年につづき今年もいた。親鳥 2 羽、雛 2 羽がいた。
56. 夏になってもこのペアはときどき姿を現す。

コサメビタキ：撮影　今西 純一

オオルリ：撮影　寺尾 幸太郎

ケリ：撮影　野村 浩

カッコウ：撮影　前田 聡

ミヤコドリ：撮影　田口 喜美恵

チュウヒ：撮影　鈴木 健真

アカエリカイツブリ：撮影　鈴木 健真

シベリアオオハシシギ：撮影　前田 聡・シズコ

クマタカ：撮影　笹間 俊秋

コマドリ：撮影　三曽田 明

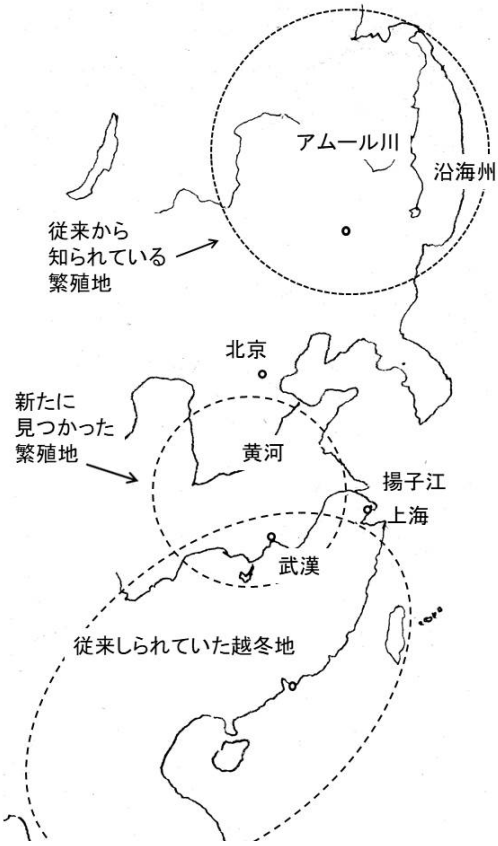
危機の鳥、アカハジロ

津市　平井 正志

アカハジロというカモがいる。オスの頭には緑色の光沢、体には赤味があり、下尾筒は白い海ガモである。分布は狭く、ユーラシア大陸東端に生息し、日本へはごく少数が冬に訪れる。バードウォッチャーの憧れの鳥でもある。ところが近年、大陸では極端に数が減っているという。Bird Life International ではそれまでの危急種 VU から 2008 年に　説滅危惧種 EN へ、2009 年にはさらに絶滅寸前の種 CR へ格上げされた。今では全世界の推定個体数がなんと 150―700 羽であるという。2014- 年から 2015 年の中国、インド、ミャンマー等でのカウントではわずかに 238 羽であった。

アカハジロの繁殖地は以前は、中国東北部中国東北部（吉林省、黒龍江省）とそれに接する、アムール川中流北岸のロシア、およびロシア沿海州とされ、中国中南部で越冬するとされていた。　しかし、近年の中国北部やロシアでの繁殖の状況ははっきりしない。繁殖期に見たとの情報はあるもの、現地で、活動する鳥類学者の数はごく限られているのだろう。もしかすると繁殖数が極端に減っているのかもしれない。

一方、近年繁殖域とされていなかった。中国中部、黄河中流域、揚子江中流域でもいくつかの場所で繁殖が明らかになった。



武漢近郊での繁殖の様子は詳しく調査された。その繁殖地は養魚に使われている湿地らしい。2018 年、2019 年をあわせた営巣成功率は 41.2％　であった　失敗の原因は増水による営巣放棄、とイタチ類による捕食とされている。また、同種による托卵があったとされている。他のメスが巣に侵入し、卵を生んでいくという。カモ類に普遍に見られる行動なのか？あるいは巣を作る適地が少なくなったための行動なのか？

中国での繁殖地が移動したということなのか？あるいは以前から繁殖していた場所が最近明らかになっただけなのか不明である。

日本では 1968 年以降毎年全国でガンカモ調査が行われている。アカハジロは毎年全国で数羽が観察されているが、ゼロの年もある。もっとも稀に、1 つの県で 20 羽ほどが発見されるが、継続的ではない。すなわち、アカハジロが以前は多かったということではない。ただ、以前は関東以北でも記録されていたが、近年は西日本に偏って記録されている。

近年中国の経済成長は著しい。人口密度の高い地域の湿地は容易に開発される。そこで繁殖するアカハジロの減少は繁殖地の開発による喪失によっているのであろう。

もう一点心配がある。近年、メジロガモとの雑種とおぼしき個体が日本でもよく観察される。三重でも今年 3 月に中西まほ氏により伊勢で 1 羽観察されている。メジロガモの分布域はアカハジロのそれのすぐ西隣、中国西部からヨーロッパにかけてである。アカハジロとメジロガモとはごく近縁である。同種の相手がみつからず、メジロガモとペアになるアカハジロが増えると、純粋なアカハジロがますます減って行く可能性がある。

参考文献

Tong, X. 2020. Baer's pochard duck at risk of extinction. Science 369(2020): 928.

Wei, S., Jia, H., Chen, Y., Pan, W., Chen, Y., Lu, Q., Tao, X. Ding, C. & Lu, X.
Reproductive ecology of Baer’s Pochard *Aythya baeri* in south China. Wildfowl (2020) 70: 211–227.

Hearn, R. The troubled Baer’s Pochard *Aythya baeri:* cause for a little optimism? BirdingASIA 24 (2015): 78–83.

Qun, L., Sichun, L. Tao, X. Baer’s Pochard *Aythya baeri:* breeding in central Yangtze region, China. BirdingASIA 24 (2015): 84–86

探鳥会予告（2021 年 10 月～ 12 月）

あいかわらず、新型コロナウイルスは県内でも蔓延しています。10 月以降、条件の整った探鳥会は開催する予定ですが、直前に中止になる場合もありえます。リーダーに問い合わせる、あるいは当会のホームページ、Twitter(@wbsj_mie) などで確認してください。

なお、ひとりで、あるいは夫婦や子供と探鳥し、他人に合わない場合はほとんど感染の可能性がありません。大いに「ひとり探鳥」を楽しんでください。

● 10 月 2 日（土） 相津峠タカ渡り探鳥会
開催地／松阪市飯南町　相津峠
集合 ／　8:30　道の駅「茶倉」駐車場
解散 ／ 11:30　現地（相津峠）

● 10 月 3 日（日） 伊勢タカ渡り探鳥会
開催地／伊勢市　やすらぎ公園
集合 ／　7:00　やすらぎ公園納骨堂前
解散 ／ 11:00　集合地

● 10 月 3 日（日） みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
小雨決行！
※探鳥会中は禁煙でお願いします。
（牧場という場所柄 火事の危険を避けるためです）
開催地／奈良県宇陀郡御杖村菅野　みつえ高原牧場
集合 ／　8:00　近鉄名張駅 西口前
解散 ／ 12:00　現地
参加予約必要　南 一朗　090-6594-0383

● 10 月 9 日（土） 海蔵川で鳥見ｉｎｇ！
（バードウオッチング）その 4　小雨決行！
開催地／四日市市西坂部町　海蔵川沿い
集合 ／　9:45　海蔵川代官橋 北詰
解散 ／ 12:00　集合地

● 10 月 16 日（土） 市木川河口及び水田探鳥会
（雨天の場合は 10 月 17 日に順延）
開催地／南牟婁郡御浜町市木　市木川河口
集合 ／　9:00　道の駅「パーク七里御浜」
解散 ／ 12:00　市木川河口
共催 ／御浜町、環境省近畿地方環境事務所、熊野自然保護官事務所

● 10 月 23 日（土） 香良洲海岸探鳥会
開催地／津市香良洲町　香良洲海岸
集合 ／ 10:00　香良洲公園駐車場
解散 ／ 12:00　集合地

● 10 月 24 日（日） 木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
開催地／愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
集合 ／　9:00　愛知県 弥富野鳥園
解散 ／ 12:00　集合地

● 11 月 14 日（日） 中村川探鳥会　小雨決行！
集合 ／　9:30　ファミリーマート
（旧サークルＫ）前の 駐車場 (「中川駅北 1」信号近く)
解散 ／ 11:30　現地

● 11 月 20 日（土） 三滝川かんさつ会
開催地／三重郡菰野町　三滝川河川敷
集合 ／　9:30　大羽根グランド駐車場
解散 ／ 12:00 頃　集合地

● 11 月 23 日（火・祝） 海蔵川で鳥見ｉｎｇ！
（バードウオッチング）その 5　小雨決行！
内容は、10 月 9 日 と同じです。

● 11 月 28 日（日） 木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、10 月２４日と同じです。

● 11 月 28 日（日） 安濃川河口探鳥会　小雨決行！
開催地／津市高洲町　安濃川河口
集合 ／ 13:00　安濃川河口 右岸の先端 東屋
解散 ／ 14:30　現地

● 12 月 4 日（土） 身近な冬鳥を観察しよう
（溜池のカモ類）　初心者歓迎
開催地／津市一身田上津部田　三重県総合博物館周辺の溜池
集合 ／　9:30（予定）
三重県総合博物館 ２階エントランスホール
解散 ／ 11:15（予定）集合地
共催 ／三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター（予定）
参加予約必要　三重県総合博物館　059-228-2283

● 12 月 5 日（日） ベルファーム探鳥会　小雨決行！
開催地／松阪市伊勢寺町　松阪農業公園ベルファーム
集合 ／　9:30　ベルファーム　匠の館前
解散 ／ 11:30　現地

● 12 月 12 日（日） 員弁川探鳥会
開催地／いなべ市員弁町　員弁川周辺
集合 ／　9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場
解散 ／ 12:00 集合地

● 12 月 12 日（日） 磯部川水系探鳥会
開催地／志摩市磯部町穴川　穴川～迫間
集合 ／　9:30　志摩市磯部町穴川公民館
解散 ／ 11:30　集合地

● 12 月 19（日） 横山池・安濃ダム探鳥会
開催地／津市芸濃町　横山池・安濃ダム
集合 ／ 10:00　津市芸濃文化センター駐車場
解散 ／ 12:00　安濃ダム

● 12 月 26 日（日） 木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
内容は、10 月 24 日と同じです。

探鳥会報告（2021 年 5 月～ 2021 年 7 月）

●瀬戸林道探鳥会（リーダー探鳥）
2021 年 5 月 2 日（日）9：30 ～ 12：00
津市美里町桂畑　瀬戸林道
奥山正次　落合 修　　参加者 4 名（会員 4 名）
コゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒガラ、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、オオルリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ドバト　計 18 種

予定していた 4 月 29 日は、コロナ禍での中止が決まっていましたが、念のために現地へ行きました。平井代表も来ていただきましたが、雨が降っていたせいもあって、参加者はありませんでした。コシアカツバメの巣は空で、例年はたくさん居るイワツバメも全く居ませんでした。天候の回復した 5 月 2 日に、現地を廻りました。コシアカツバメが巣の修復に取り掛かっていましたが、イワツバメはいませんでした。今年は飛来が遅れているのかも？

●上野森林公園探鳥会　（リーダー探鳥）
2021 年 5 月 9 日（日）8：45 ～ 11：00
伊賀市下友生松ヶ谷 1　三重県上野森林公園
共催団体／上野森林公園・三重県環境学習情報センター
前澤昭彦　南 一朗　　参加者 2 名（会員 2 名）
トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、ホオジロ　　計 11 種

●金剛川河口探鳥会　　（リーダー探鳥）
2021 年 5 月 1 7 日（月）9：30 ～ 11：30
松阪市高須町　金剛川河口
中村洋子　小野新子　　参加者 4 名（会員 4 名）
マガモ、カルガモ、オナガガモ、スズガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ダイゼン、メダイチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、オバシギ、トウネン、ハマシギ、サンショウクイ、モズ、ヒバリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、　計 30 種

今年は 3 週間も早い梅雨入りになりました。せせらぎ公園で渡りの鳥が見られたらと思ったが、雨の影響でムクドリ、カワラヒワ、モズ、あとサンショウクイ等でした。

河口では、雨なので鳥は見づらかったが、ハマシギが 800 羽位 餌を獲りながら動いていました。ミヤコドリ 18 羽居たが、しばらくしたら櫛田川左岸の方へ飛んで行った。ダイゼンは胸から腹にかけて黒くなっている個体、まだ白い個体、いろいろ居て、その変化が面白かったです。

●木曽岬干拓地探鳥会（リーダー探鳥）
2021 年 5 月 23 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉 静　笹間俊秋　　参加者 2 名（会員 2 名）
オカヨシガモ (1)、カルガモ (12)、キジバト (2)、カワウ (40)、アオサギ (12)、ダイサギ (8)、チュウサギ (2)、コサギ (1)、ケリ (10)、コチドリ (1)、トビ (3)、ハシボソガラス (20)、ハシブトガラス (50)、ヒバリ (20)、ツバメ (300)、ウグイス (10)、メジロ (1)、オオヨシキリ (10)、セッカ (30)、ムクドリ (30)、スズメ (35)、ハクセキレイ (1)、カワラヒワ (3)、ドバト (5)　計 24 種

まん延防止処置のため探鳥会は中止となり、リーダーのみで調査になりました。

前日までぐずついた天気でしたが、この日は久しぶりによく晴れました。水田や干拓地ではセッカやオオヨシキリがしきりに鳴いていました。鍋田ではトビが飛翔して来ましたが、カラスとケリの縄張りに近づいたため、双方から強烈な威嚇を受け追い払われていました。去年より続く堤防工事で水田を廻れないので、鳥の種類は少な目の 24 種でした。

ヒバリ

●赤目四十八滝探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 5 月 23 日（日）9：00 ～ 11：30
名張市赤目町　赤目四十八滝
田中豊成　南 一朗　　参加者２名（会員２名）

カワウ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、オオルリ、キセキレイ　計 11 種

キセキレイが大きな岩の不安定な所に巣造りをしていた。帰りに見ると、巣は落下したのか無くなっていた。オオルリは、道中にある女性トイレの入り口ドアの上に営巣していた。日曜日だったので、人の出入りが多く、♂親 ♀親は餌を咥えたまま待機をしていた。巣には雛がいたが、この日は受難のように見えた。全体に種数は少なかった。

●伊勢おはらい町ツバメ探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 6 月 5 日（土）9：30 ～ 10：30
伊勢市今在家町　内宮おはらい町
西村 泉　　参加者 1 名（会員 1 名）

ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、イソヒヨドリ、カワラヒワ、イカル　計 10 種

新型コロナウィルス感染拡大により中止になったので、一人探鳥を行いました。
1 時間遅れての出発。最初ほとんど人出はありませんでしたが、時間が経つにつれ人の流れが多くなってきました。今回の主役ツバメは、例年と変わらず賑やかでした。喫茶店のご主人は「お客はさっぱりやけどツバメだけは多いわ」と苦笑されていました。巣のある大半の店では、フン受けの笠や板を備え付け、カラス除けのネットも。赤福本店では、正面玄関の内側にかけてある注連飾りの上に巣があり、見ていたら店員さんが「卵を抱いている日が長く心配しているのです」と話しかけてきました。すると親鳥が巣に来た直後、小さなヒナの頭がひとつ見えたので、店員さんに「ヒナがいますよ」というと、安心した様子でにっこりされました。おはらい町のツバメは、今年もたくさんの人たちに見守られていました。

●木曽岬干拓地探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 6 月 27 日（日）9：00 ～ 11：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　　参加者３名（会員３名）

キジ (1)、カルガモ (5)、キジバト (5)、カワウ (50)、アオサギ (26)、ダイサギ (3)、チュウサギ (1)、コサギ (1)、ケリ (1)、コアジサシ (2)、ミサゴ (1)、チュウヒ (1)、オオタカ (1)、カワセミ (1)、コゲラ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (60)、ヒバリ (30)、ツバメ (150)、ウグイス (5)、オオヨシキリ (5)、セッカ (20)、スズメ (50)、ハクセキレイ (2)、カワラヒワ (2)、ホオジロ (3)、ドバト (20)　計 28 種

新型コロナウィルスのため探鳥会は中止となりました。３名のリーダーで観察地を回り調査しました。曇っていたため比較的観察しやすい日でした。

●足見川探鳥会　（リーダー探鳥）

2021 年 7 月 4 日（日）13：15 ～ 15：15
四日市市山田町　足見川
笹間俊秋　参加者 1 名（会員 1 名）

カルガモ、キジバト、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、ケリ、コチドリ、トビ、サシバ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、コシアカツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、セッカ、キビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 24 種

今年もコロナの影響で中止となり、リーダーのみの観察になりました。

午前中は雨が降っていたので、午後からの観察となりました。水田の上には多くのツバメが飛び、セッカが鳴いていました。サシバは営巣地の奥で高木へ止まっている姿が何とか確認できました。コシアカツバメは、今年は集合場所付近で数羽が飛んでいました。

シジュウカラ

●木曽岬干拓地探鳥会（リーダー探鳥）

2021 年 7 月 25 日（日）9：00 ～ 11：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　笹間俊秋　　参加者３名（会員３名）
リーダーで個別に観察をまとめる

カルガモ (6)、キジバト (2)、カワウ (30)、アオサギ (3)、ダイサギ (4)、チュウサギ (1)、コチドリ (30)、アオアシシギ (1)、タカブシギ (2)、イソシギ (1)、ミサゴ (1)、カワセミ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (20)、ハシブトガラス (10)、シジュウカラ (2)、ヒバリ (2)、ツバメ (2000)、ウグイス (3)、オオヨシキリ (1)、セッカ (10)、ムクドリ (200)、スズメ (50)、ハクセキレイ (2)、カワラヒワ (5)、ホオジロ (5)、ドバト (12)　計 27 種

新型コロナウィルスのため探鳥会は中止となりました。３名のリーダーで、観察地を回り調査しました。暑い日で、鳥の活動も不活発でした。

カワラヒワ

原稿募集

編集部では会報「しろちどり」に掲載する原稿を募集しています。「ひとり探鳥」は　探鳥会報告の形式と同じ形式で掲載しますので、探鳥者名、日時、場所、出現した鳥名、コメントをお寄せください。むろん写真も OK です。探鳥会が平常通りに行われていても「ひとり探鳥」は掲載しますので奮ってご投稿ください。

「写真」も随時募集します。複数枚の組写真も OK です。簡単なコメントを付けてください。また「イラスト」も随時募集しています。

投稿は当会のホームページの一番下の「会報へのご意見・ご投稿」から、または右記の住所へ郵送でお願いします。（編集部）

編集後記

今回の号も野鳥記録は大繁盛である。珍鳥記録もあるがそれ以外の記録も相当ある。嬉しい限りである。

シロチドリの編集と平行して海岸パンフレットの改訂を行っている。野鳥の記録の少ない海岸が結構ある。北の高松海岸、四日市市の吉崎海岸、鈴鹿川派川の記録はシギ・チドリの調査地にはなっておらず、記録はほとんどない。また櫛田川から宮川にかけての海岸での野鳥の記録も少ない。

会員が見に行っていないわけではなかろうが、どうせ普通種ばかりだとして、報告されていないのだろう。しかし、どこにどんな鳥がいるのかは重要な情報である。いつ何時、開発の計画が発表されるかもしれない。

野鳥の記録は会報に掲載される。会報は三重県立図書館に創刊号から全号が納本されていて、誰でも見ることができるし、また、PDF で当会ホームページでも閲覧できる。そのうち、検索機能も入れたいと思う。

ぜひ、野鳥の記録を報告してほしいものである。記録が積み重なると、野鳥の増減、分布の変化がわかってくるかもしれない。

（M. H.）

しろちどり　110 号
2021 年 9 月 15 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：田中 豊成
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重
平井 正志　方
〒 514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市